



11.2sat  
-3sun

# ケアの クリエイティビティ



11.16  
sat

# 伝統文化と ゆたかな暮らしを繋ぐ

「信州アーツカウンシル2024パレード」3カ所目は上田市へ移動! 11月2～3日、「ケアのクリエイティビティ」にフォーカスし、福祉、教育、子ども、その他様々な支援の取り組みにおける「ケア」の視点と文化芸術を織りあわせ、創造的な活動を行っている団体の皆さんとともに、複数の会場で企画を行いました。続いて「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」をテーマに11月と1月に南信州で開催の「パレード」の(前半)のプログラムとして11月16日に阿智村で実施した長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」講座、加えて、銀座NAGANOなどで開催した「旅する信州アーツカウンシル・ワーキングDAY」についてもレポートします!

## 10-11月パレード 日程

10.12-11.4 📍大町市総合福祉センター／大町市街地  
ザワメキアート展／ザワメキ・キャラバン大町

10.19 📍銀座NAGANO  
信州で活動しませんか?  
～アート・文化×移住定住・関係人口/  
旅する信州アーツカウンシル・ワーキングDAY  
+活動紹介+相談窓口

11.2-3 📍サントミュージゼ／犀の角／リベルテ ton-屯- / 上田映劇  
信州アーツカウンシル2024パレードin上田  
ケアのクリエイティビティ

11.16 📍阿智村中央公民館／古民家「つばや」  
信州アーツカウンシル2024パレードin南信州<前半>  
「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」  
・長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」  
・旅する信州アーツカウンシル・ワーキングDAY @阿智村

## // VOICES //

### 登壇者・参加者の声

11/2-3 パレードin上田「ケアのクリエイティビティ」と11/16パレードin南信州「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」<前半>の「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」から印象的な言葉をピックアップしました!



障がいの有無関係なく自由に表現して人が交わる場として「アトリエもも」を始めました。すもも中には賑やかな場が苦手な人がいます。そこで各々が静かに創作できるように空間を工夫して「しずかなアトリエ」を開いたら、居場所を探していた様々な人が来られるようになりました。  
アトリエもも  
鈴木真知子さん(左)  
西川直子さん(右)



photo by Marehito Antoku

リベルテが2021年から取り組んでいる「路地の開き」では、これまで福祉施設での庭づくりや、災害を想定した防災・避難の練習など、障がい福祉と地域を、アートを通して横断的に結んでいく試みを行ってきました。  
NPO法人リベルテ 武捨和貴さん



photo by Marehito Antoku

花火の火花の変化を生み出す技術を競い合い、その微妙な変化を楽しむというのが、南信州の花火の特徴の1つです。その中でも清内路は完全なる手作りの伝統を残し、南信州の煙火文化の神髄を受け継いでいます。  
國學院大学兼任講師 櫻井弘人さん



photo by Marehito Antoku

障がいがある人となない人が混じり合っ、身体表現のワークショップを行うことで、ケアする人 / される人という普段の関係性が揺らぎます。固定されたフレームから外れることが、豊かさにもつながっていくと思います。  
さくほミングル 大村麻弥さん

11.2 Sat  
-3 Sun

# パレード in 上田 ケアのクリエイティビティ

パレード第3弾は、東信エリアを中心に信州アーツカウンシルで支援する文化芸術とケアの視点を織りあわせ創造的な活動を行っている団体が一堂に会しました。展示・ワークショップ・パフォーマンス・映画上映など、とにかく盛りだくさんの2日間でした!

photo by Marehito Antoku

## ①アトリエももも [茅野市]



障がいの有無・年齢・属性関係なくごちゃまぜになって表現を楽しむためのアトリエとして茅野市の「荒神の古民家」を拠点に活動しています。今回はちゃぶ台と座布団、制作された作品やたくさんの画材が空間を囲み、実際のアトリエももものような和やかな雰囲気が終始ただよっていました。

## ②NPO法人WHITE CANVAS [安曇野市]



安曇野市にある福祉とものづくりのアトリエ「TIME WARP」では、利用者が制作した淡い水彩の絵や刺繍作品が並びました。地域にアトリエを開く取組として講師の絵本作家斎藤慎さんによる土絵の具ワークショップで利用者・一般参加者・国際ボランティアの方と制作した「雷鳥」の絵が目目を惹きました。



## ③さくほミングル [佐久穂町]



佐久穂町の放課後等デイサービス施設に通う子どもたちを中心に、ダンスと音によるワークショップを実施しています。講師の砂連尾理さんをはじめとしたワークショップに携わる人々の声やワークショップ中の写真など、「さくほミングル」によって育まれてきたものを感じることができる展示でした。

## ④NPO法人アイダオ [上田市]



学校に行きづらい日を映画館で過ごす「うえだ子どもシネマクラブ」では、昨年度よりその日みた映画に関連した切り口でさまざまなワークショップを行ってきました。展示ではこれまで上映してきた映画のチラシやここを居場所として過ごす子どもたちが映画を観て感じたことを表現した水彩作品やペイントした石も!

### サントミュージゼ 展示会場マップ (多目的のルーム)



## ⑤NPO法人リベルテ [上田市]



リベルテが2021年度から実施している「路地の開き」プロジェクトで使用した小道具やリベルテのメンバーが作ったオブジェなどを展示。2023年度の街歩きで使った縄や、2024年度の防災・避難練習の際に用いたラジオ放送の様子など、目でも楽しい、耳でも楽しい賑やかな展示となりました。

## ⑫ザワメキサポートセンター



大町市で開催されていた「ザワメキアート展 2024 ネイチャーインアウト」展の展示作品を一部紹介!同じ時期にこれまた大町市で開催されていた「北アルプス国際芸術祭2024」のコンセプトに合わせ、「水・木・土・空」の4つをテーマにした作品群が並びました。

## ⑬信州アーツカウンシル

これまでの主催事業やパレードの振り返りができるパネル展示や、9月にザワメキサポートセンターとの協働で行った北アルプス国際芸術祭を障がいのある方と巡るモニターツアーレポートを紹介しました。また、量とちゃぶ台でホッと一息つける「なごみ処」では信州アーツカウンシルはここでオリジナルカードづくりも!



## ⑦NPO法人ながのアート ミーティング [上田市/小諸市]



「こもろのおうち」では、月に1日、生きづらさを感じている子どもたちや障がいのある子どもたちを主な対象としたワークショップが開催されています。講師として参加した各分野のプロの紹介や、ワークショップごとに発行される「こもろのおうち通信」が展示され、今までの活動の記憶がざらりと並びました。

## ⑩まるっとみんなで準備室 [軽井沢町]



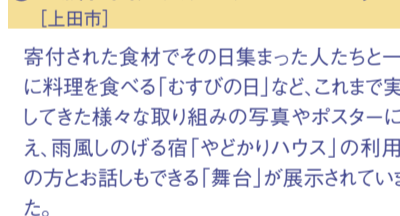
様々な工夫や鑑賞サポートによって、障がいの有無から年齢、国籍を問わず、軽井沢町に住む様々な人が集い、映画を楽しみながら交流できる「まるっとみんなで映画祭」の内容や、映画祭のこれまでの歩みについて展示しました。展示は風船に囲まれ、楽しそうな雰囲気!

## ⑧むらびとアートプロジェクト [宮田村]



宮田宿のフリースペースを拠点に障がいの有無を問わないバリアフリーな地域活性化活動を実践しています。映像では地元ミュージシャンによるオープンマイクや宮田宿を写すフォトコンテスト、竹を使った楽器制作ワークショップなどの紹介があったほか、地元アーティスト青木星斗さんのアート作品展示で会場を彩りました。

## ⑨一般社団法人シアター&アーツうえだ [上田市]



寄付された食材でその日集まった人たちと一緒に料理を食べる「むすびの日」など、これまで実施してきた様々な取り組みの写真やポスターに加え、雨風のしる宿「やどかりハウス」の利用者の方とお話しできる「舞台」が展示されていました。

## ⑪わかち座 [小諸市]

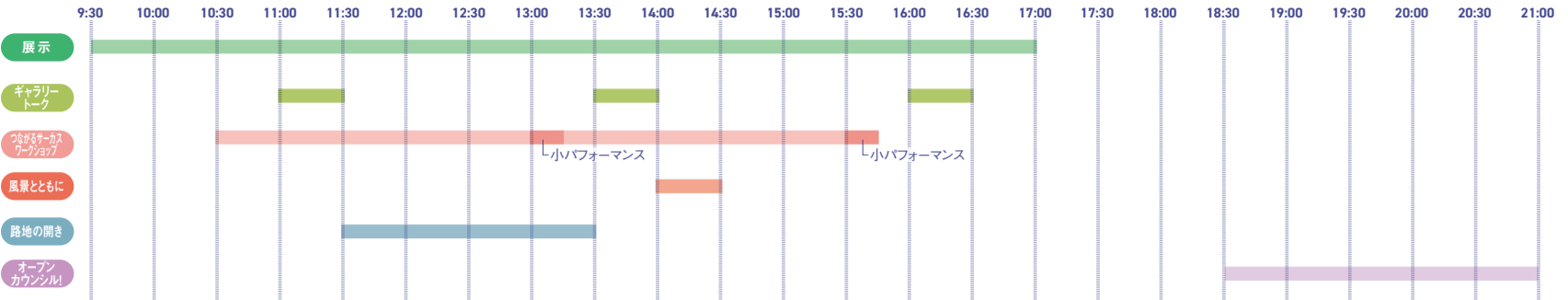


これまでの活動内容に加え、振付家・ダンサーの鈴木ユキオさんを招き、ワークショップやショーイングを行う「BBGセッション」の過程で生まれた印象的な言葉を展示しました。ダンスの写真あり、ブルーベリーの絵もありと、農業と表現の場を両立・共存させているわかち座らしい展示になりました。



それぞれの個性あふれる展示が会場をにぎやかに彩りました

11.2 sat TIME LINE

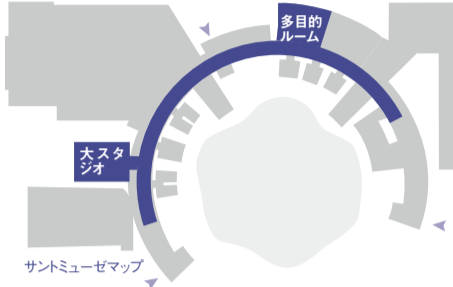


11.3 sun TIME LINE



体験スペース「つなぐサーカスワークショップ エアリアル&ジャグリング体験会!」[大スタジオ]

サーカスアーティストの金井ケイスケさんと、ケアの文化拠点・ほっちのロッチは、協働でソーシャルサーカスのプロジェクトを行っています。今回は、サーカスのエアリアルとジャグリングを体験できるスペースが登場!エアリアルで使われる月形のフープや、ジャグリングのピンやボール、ディアボロと呼ばれるコマ、皿回しの道具などが並びました。年齢を問わず終始にぎやかな様子でした。そして2回行われた小パフォーマンスでは、エアリアルの圧巻のショーと、オーディションで選ばれた市民キャストたちも見事なパフォーマンスを披露しました。



わかち座+鈴木ユキオプロジェクト「風景とともに」 [多目的ルーム/交流プロムナード/大スタジオ]

ダンサーは年齢、障がいの有無、国籍、ダンス経験いずれも問わず公募され、全国からたくさん集まりました。パフォーマンスは、展示が並ぶ多目的ルームからスタート。突然始まったダンスに、居合わせた人たちが観客になり、導かれるようにプロムナードへ。観客も一緒に、大スタジオへ集団で移動しました。途中でゆったり歩いたり、少し立ち止まったり、手を上にかざしたり、外の風景も感じながら。大スタジオでは、金井ケイスケさんとサーカスの出演者も巻き込み、音楽に合わせて踊りました。思わずダンスの輪に入っていき観客も!一人ひとり違いはあれど、1つのパフォーマンスを作り上げた参加者を温かい拍手が包みました。



「路地の開き ～リベルテと世界を結ぶ街歩き～」

[ton-屯- NPO法人リベルテ]

あいにくの雨天のため、当初予定していたリベルテメンバーと巡る街歩きは中止となり、代わりにリベルテが運営する食堂「ton-屯-」にて、代表の武捨和貴さんから、2021年度から継続的に実施している「路地の開き」プロジェクトについてお話を伺いました。2021年度のアトリエでの庭作りから始まり、2022年度のちんどんパレード、2023年度の街歩き、そして本年度実施した防災・避難練習まで、リベルテがアートを通してどのように障がい福祉を地域に開き、関係を紡いできたのかをお聞きしました。お話のあとは、メンバーがつくったお昼を参加者全員でいただきました。この日のメニューは具がたっぷり入った中華丼。五感を通してリベルテを“体験”できたプログラムとなりました。



オープンカウンシル! vol.3

「アーツ&ケアのオープンマイク!」 [犀の角]

夜は海野町商店街にある民間文化施設・犀の角に会場を移して、地域の文化芸術活動や支援・ケアの活動をしている皆さんと交流する時間になりました。夕食は犀の角で毎月恒例となっている食事会「のきた むすびの日」のようなかたちで、寄付された食材を使って、その日たまたま集まったみなさんと料理をして、食べました。温かい食事と楽しい会話の空気が会場を満たすなか、犀の角の荒井さん、NPO法人WHITE CANVASの石岡さんや信州アーツカウンシルスタッフが、想いや自己紹介を中心にラジコ感覚でマイクを繋ぎ、後半には多くの参加者の皆様がそれぞれの話題で盛り上がっていました。“ケア”をキーワードに信州アーツカウンシルの主催・助成事業等で関わりのある人や団体が集結する機会となり展示やキャラリートークに加えて深く知り合う時間となりました。



映画「へんしんっ!」上映&トークセッション [上田映劇]

『へんしんっ!』は、電動車椅子に乗った石田智哉監督が障がい者の表現活動の可能性を探り、取材を重ねて制作されたドキュメンタリー映画です。会場は、100余年の歴史を誇る上田映劇。上田映劇では、上映作品の一場面を描いた「映劇はんこ」を映劇手帳に押すのが恒例のお楽しみですが、今回は『へんしんっ!』のはんこを受付時にドネーションしてくださった方、手帳を持参した方に押印しました。映画には、日本語字幕や音声ガイドが付されており、聴覚や視覚に障がいがあっても楽しめるものでした。上映会の後は、NPO法人アイダオの直井恵さん、信州アーツカウンシルの野村政之ゼネラルコーディネーターの司会の下、さくほミングルの大村麻弥さん、まるっとみんなで準備室の中村茜さんに登壇いただき、トークセッションへ。まずは各々の活動やそこに至る経緯から始まり、ケア、アート、地域という3つをキーワードに話が進みました。映画は最後、ひとり一人障がいの有無や種類に関係なく、互いの身体を接触させながら即興でダンスを踊るシーンで終わりますが、障がいがある人が様々な人たちと協働する場を作ることができるのが文化芸術の強みであるという話や、アートを運営する立場として、障がい者の皆さんと協働することから、行政と協働する時に留意すべき点を学ぶことができるという話が出るなど、ユニバーサルな地域づくりと文化芸術について対話を深めました。



当日の様子ははこちらから



11.16  
sat

パレード in 南信州 < 前半 >  
伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ

次なるパレードは、「民俗芸能の宝庫」と呼ばれる南信州地域へ。「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」というテーマで、11月と1月の前後半に分けてイベントを行います。ここでは、その前半の様子をレポートします！



長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」講座 座談会の様子



国立劇場おきなわ調査研究専門嘱託員・茂木仁史さん



國學院大学兼任講師・櫻井弘人さん

パレードin南信州前半では、長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」講座と、「旅する信州アーツカウンシルコワーキングDAY@阿智村」を11月16日に行いました。

\* \* \*

コワーキングDAYの会場は、(一社)阿智村全村博物館協会が交流拠点として活用している町屋造りの古民家「つばや」。昭和初期に建てられ、元々は呉服屋を営んでいたという立派な建物からは深い歴史を感じ、心安らぐ空間でありながらも、しっかりWi-Fi設備が整っており、仕事もはかどります。当日は五平餅作り体験も行われており、体験を終えた子どもたちが信州アーツカウンシルのスタンプコーナーでも遊んでいってくれました。つばやの2階では信州アーツカウンシルの事業を紹介するミニ展示を展開し、これまでのパレード関連の展示を中心にパネルなどが並びました。

\* \* \*

そして阿智村中央公民館で、琉球と南信州の花火文化についての講演と座談会を、阿智村、南信州民俗芸能継承推進協議会と共同で開催しました。かつて琉球王国の首里城の庭で、冊封使と呼ばれる中国からの使者のために精密な仕掛けを駆使して披露されていたと言われていた琉球のからくり花火。琉球王国とともに花火の伝統も消えてしまいましたが、残された記録を基に、国立劇場おきなわが5種類のからくり

り花火を復元しました。沖縄では鉄粉を用いた近世の花火製造技術が伝承されていないために西洋花火を用いたそうですが、往時の輝きを再現するには鉄粉を用いる日本古来の和火の使用が不可欠でした。そこに、阿智村清内路に伝わる火薬から完全に手づくりする花火が貢献しました。その歴史は1717年(享保2年)まで遡り、火薬の製造から仕掛け、消費まで全てを自分たちで担うというもので、長野県の無形民俗文化財に指定されています。そこで、10月6日の阿智村上清内路の手づくり花火の打ち上げに合わせて、上清内路煙火同志会が手づくりした噴き出し花火を装填した琉球からくり花火「双龍」が披露され、往時の輝きを蘇らせました。一方は山に囲まれた内陸県、もう一方は海に囲まれた島と、一見縁遠く感じられるかもしれない長野県と沖縄県が、花火を通じてつながった瞬間でした。

\* \* \*

講座では、まず琉球花火の復元に携わった国立劇場おきなわ調査研究専門嘱託員・茂木仁史さんに、琉球花火の概要やその特徴を解説いただきました。そして國學院大学兼任講師・櫻井弘人さんから、南信州における花火文化と清内路の手づくり花火についての講演があった後、琉球花火と清内路の手づくり花火についての座談会に移りました。座談会では、櫻井さんがコーディネーターを務め、茂木さんに加えて上清内路煙火同志会の櫻井信和さん、下清内路煙火有志会の門野祐一さん、関島煙火製造所社長の関島善純さんにご登壇いただき

き、コメンテーターには国立劇場おきなわ運営財団理事、國學院大学名誉教授の小川直之さんを迎えました。琉球花火を担う「火方」には中国へ留学に行った人もいたようですが、伝統的な中国のからくり花火はからくりを大きくする方向へ発展したのに対し、首里城という敷地の制約があったことから、琉球花火はからくりをより精緻にしていく方へ発展していったそうです。そして、清内路の手づくり花火は天下泰平や平和の象徴で、いかに「花」(=火花)をきれいに見せるかにこだわります。また南信州地域においては、花火はイベントではなく、日常の一部になっているというお話もありました。それから、それぞれが抱える課題や今後の目標なども語られ

ました。より当時の姿に近い琉球花火の復元には、清内路の手づくり花火の技術が不可欠で、その復元は琉球史にとっても画期的な出来事と位置づけられるというお話もあり、伝統文化の継承は当地だけでなく、遠く離れた土地の文化や歴史にも資する可能性があるということを確認し、その底力を改めて感じました。観る側も作る側も楽しいのが魅力で、遊び心を欠かさずに脈々と受け継がれてきたという清内路の手づくり花火。地区の高齢化、過疎化に伴い、資金と人手の不足が大きな課題にはなりますが、これからも末永く続いてほしいと切に願います。



つばやの2階は大きな広間になっています



古民家「つばや」でコワーキングDAY!  
何色もの色を使い分け、カラフルに仕上げていました。

次回  
予告

2025.1.26 パレードin南信州 < 後半 >  
伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ

信州アーツカウンシル2024パレードin南信州(後半)は、南信州民俗芸能継承推進協議会と協働し、「第3回南信州民俗芸能フェスティバル」を開催。「信州の三番叟」をテーマに、県内各地の地芝居や人形芝居の伝承団体による実演や講演を行います。

第3回南信州民俗芸能フェスティバル

日時 令和7年1月26日(日)10:20～16:15

会場 飯田市鼎文化センター

内容 「信州の三番叟～祝福と祈りの芸能」ほか

主催 南信州民俗芸能継承推進協議会、信州アーツカウンシル、長野県



10.19  
sat

信州で活動しませんか?  
～アート・文化×移住定住・関係人口  
／旅する信州アーツカウンシル・コワーキング DAY + 活動紹介 + 相談窓口



「銀座NAGANO」(東京) 5階にて、首都圏在住の方向けに移住定住・関係人口の視点から相談会と展示を行いました。長野県に惹かれ移住を考える上で地域との接点としてアート・文化の切り口からつながりを見出そうとしている方にご来場いただきました。



信州アーツカウンシル  
2024  
— ともにつくるムーブメント —  
Shinshu Arts Council 2024 "Parade"

2024.6.15 ▶▶▶ 2025.2.11

6.15 はじまりの交流会@伊那文化会館

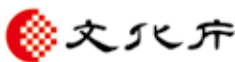
8.4-23 アーティストと文化施設のこれから@茅野市民館ほか

11.2-3 ケアのクリエイティビティ@上田市サントミュージゼほか

11.16.1.26 伝統文化と豊かな暮らしをつなぐ@南信州エリア

2.2-11 文化芸術を媒介とした協働共創のゆくえ @長野エリア

主催:信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)、長野県



令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



特設サイトはこちらから▶

